

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	A②-2
事 業 名	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A⁻	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断された。
コメント 本事業は、東京大学教養学部、北京大学及びソウル大学校の3大学がアライアンスを組み、グローバルな課題の解決に取り組むことのできる「協創型人材」を育成する高度な教養教育の充実と共同での人材育成を図るものであり、グローバルな課題の解決に取り組むことのできる人材（「協創型人材」）を育成することを目的としている。 事業展開では、事業期間中に派遣163名、受入114名の学生が参加し、当初の計画に対し、派遣学生数及び受入外国人数は、大幅に上回った。Semester単位での留学の派遣・受入以外に、サマープログラム3回をはじめとしたプログラムが計16回実施され、コロナ禍によるオンラインプログラムも工夫されて開催された。全参加者の内、単位取得を伴う3か月以上の交流を行った学生の割合は当初の計画に比しやや低いものの、実績として派遣・受入学生のいずれも全参加学生の3割程度を占めた。語学能力については、英語を基本言語としているが、達成目標は中国語及び韓国語としているところに本プログラムの特長があり、語学教育の効果も高いと期待できる。計画以上の交流学生数実績から、教養教育の深化により、アジア発信によるグローバル化に大きく貢献したことが評価できる。また、北京大学との連携による「東アジア藝文書院」での活動が進んでいる。 その一方で、当初計画では「ジョイント・レクチャー」、「アジア協創サブメジャー」及び「第三者委員会」の設立により、教養教育の質の保証や向上に関する活動を統括することを目標としていたところであるが、その体制は必ずしも整備されていない。また、交流学生数や語学教育では優れた成果を示したものの、三大学間の連携体制は整っていないように見受けられる。今後は、本事業の計画で遂行できなかった体制構築について、ソウル大学校との連携も含めた組織づくりが望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	